

エッフェル塔は、フランス革命100周年を記念して建てられたパリを代表する塔である。建設当時は、賛否両論に分かれた話は有名である。

産業革命以降、石造りの重厚な建物に支配されていた時代背景の中に、鉄という素材で解き放たれたこの塔に注目が集まるのは当然かもしれない。今のパリ市内を見渡すと、鉄・ガラスで建てられた建物は、多々見受けられるが、エッフェル塔建設当時の人々にとっては、新鮮だったに違いない。

レースの刺繍に例えられるその姿は美しく、空を背景に映るシルエットが印象的であった。

又、近景・遠景でも表情が異なり、近景のそれは各部材の組まれ方が繊細であり、遠景のそれは、逆に力強い象徴的な印象を受ける。夜のライトアップされた姿も昼間と違った表情を見せ、楽しませてくれた。

